社会福祉法人 愛 神戸真生塾
題字 斉藤 敬好

第４５号
2021年３月31日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
７丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078)341-5897
FAX (078)341-8239
E-mail:kouhou@kbshinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680

# 『神戸真生塾130周年を振り返って』

神戸真生塾特別顧問
神奈川県立保健福祉大学名誉学長
社会福祉法人横須賀基督教社会館会長
阿部志郎

六五年前、私は大学勤務だったので夏季休暇があり、妻（水谷愛子の次女律）と真生塾の家で過ごした。

その後、横須賀キリスト教社会館で働くことになり、水谷夫妻に娘二人を預け、せいぜい数日しか過ごすことができぬようになる。

初めの三年間は、ガキ大将のように男の子達を引連れて諏訪山で蝉取りに夢中になり、琵琶湖、淡路島のキャンプにも参加したのは懐かしい思い出。

あの時の子ども達は、いまどうしているだろうか。老齢期を迎えているはずだ。

一九九五年の大震災の時、何回繰り返しても電話はかからない。栃木県にいた娘篤子から、公衆電話で真生塾の公衆電話を通じて「子ども達は無事、自宅で職員一名犠牲に」との報せが届く。二日後、直接公衆電話で山村さんに状況を聞き、欲しいものは?と尋ねると、「子どもの薬と、水とトイレ」の返事。

神戸までのルートを当地の交通公社に問合わせると、大阪天神橋から船があるが、行列で五時間待ち、三田から乗り換えて神戸に入れるかもしれません。宿はポートアイランドのホテル一つのみ。ただし、水は出ず食事なし、液状化で行けるかどうか、の答え。やむなく三田のビジネスホテルを予約し、地元の駅で三田までの切符を求ると、三田とはどの辺にあるのですか、と問われる始末。

ともあれ、三田に一泊して、神戸に入る。近くのＹＭＣＡで草地氏に会う。ボランティアとして活躍していたが、これが草地氏の顔をみた最後になる。

三人の茶髪の十代の少年が、自分の身体を雨に濡らしながら、救援物資を体でかばいながら避難所に運ぶ姿に、優しさをみる。優しいの字は人が憂いにかかわると書く。恐らく人のために働くことのなかった少年達の姿に感銘を受ける。

七丁目のカトリック教会は全壊なのに、真生塾の建物は残っている。偶々に居あわせた大林組建築技師が友人なので診断を依頼すると、「当分は使えるが再建しなければ危険」と。

山村さんが忙しく働いている。丁度電話修理が終わったところ。社会館、衣笠病院の職員からの約七十万円の義損金に領収書を書く余裕がなかったのだろう。仕方なしに、事情を明らかにし、塾長の代りに一切の事情と感謝の文書三百枚を職員達に配る。

衣笠病院で調剤した六kgの薬が役立ったのは幸いだった。信愛学園の子ども達が加わり騒然としていた。

夕刻退去し、夜中の一時の最終便で帰宅。

妻は、その後、篤子とともに大阪から救急車輌に便乗して神戸へ。妻の報告は、私の感想と異なる。戦争中、建物が焼失し、子ども達と防空壕で生活したが、配給食料は一世帯分のみ。孤児は戦争遂行に足手まといという差別を受けていたので、今回救援物資が山のように積まれていて夢のよう、だと。

震災で食料、日用品が入手できず困っている時に援助してくれたのは宇治川市場と、かけつけてくれた卒園生達であったのは、記憶に新しい。そして、今井鎮雄さん。世界ロータリーの国際理事であったので、世界中のロータリークラブから援助金が集まり、私の推定では十億円によって、神戸ＹＭＣＡも真生塾も援助を受け、ロータリーの家が建った。

余談だが、水谷愛子が召天した時、二、三名の理事に計り、デンバー滞在中の今井さんに電話し「水谷愛子が亡くなり、今井さんが後任の理事長に決まった。もうひとつ、水谷の葬儀委員長にも。」「えぇ！」という声を聴きながら電話を切る。デンバーの真夜中のこと。

その後、よく私への怨み言を今井さんは言われた。微笑みながら。今井さんのお陰で真生塾は再築できたことを付け加えておく。

さらに今井さんが、「律ちゃんが塾長を引受けるのが条件だよ」と私に迫ってくるのは困惑した。

やむをえず、山村さんが就任するまで一年間、妻は引受けざるをえず単身赴任した。月一回は帰宅したが、忙しい時は、中間の名古屋でデートしたもので、これも昔話。

矢野毅は、岡山孤児院の石井十次の下で修行し、仲間とともに神戸孤児院を創設した。

石井十次日誌に、何回か寄付者として矢野の名前が登場する。水谷愛子は「石井のおじさん」と親しげに呼び、石井も度々に真生塾を訪問し、交流が続いたのである。

故郷の宮崎県高鍋で、医師を志していた石井は、貧しい母子に出会い孤児院の仕事をする決意をする。その行為の表現として「孤児のほかなにも知るまじ、語るまじ」と石井のアイデンティティを告白する。同時に、孤児の処遇を国家のレベルで考え政府に提言する。

すなわち、一方で孤児との同一化に努力し、他方、冷静に天下国家を眼中にする。近づけ、と、離れてみるの矛盾を内的に総合した稀にみる人物といえよう。これは、今日の私達にとって重要な課題ではあるまいか。

石井の孫、児島虎一郎が三十数巻に及ぶ日誌を、栽培したお茶の利益で年に一冊二冊と刊行し続けた。

大学にいる時、講義でその話をし、「お茶を頭陀袋で買ったが、あまり美味しくない」とつけ加えた。年度末に提出されたペーパーに、「美味しくないお茶を売っている児島の息子です」と書き加えた学生がいる。現在の石井友愛荘理事長児島草次郎である。草次郎とは交流を続け、昨年一緒に石井の墓参りをした。

草次郎は、政府の社会的養護の方針を批判し数名の人々と声明を公にしている。児童養護施設の意義と役割を鮮明にしているが、署名しているひとりが鳥取こども園長で全国児童養護施設協議会長をした藤野興一で、厚生省専門官の柏女霊峰、厚生省企画課長河幹夫とともに、真生塾のシンポジウムに参加し、貢献して頂いたことがある。

百三十年に及ぶ長い歴史を営々と労苦と喜びを積み重ねてきた神戸真生塾が、他の多くの施設が廃止されていくにもかかわらず、常に発展をしているのは、珍しい。

日本全体の十万の施設の中で、年代順では二十位内に位置しているのは誇ってよいと思う。

神の恵みであるのは疑う余地がない。

これからも、神に感謝しつつ、社会の状況に適切に応じながら、希望をもって一足また一足と前に進んでいくことを期待したい。

# 児童養護施設　神戸真生塾

## クリスマス祝会

本年度イエス・キリストのご生誕をお祝いする祝会は、感染症予防の為神戸真生塾の子どもと職員のみでのお祝いとすることになりました。

その為実施にあたり館内放送でクリスマスの礼拝をしました。職員有志のトーンチャイム演奏、祝会ではビンゴゲームとクリスマスファッションショーを行いました。ビンゴゲームではそれぞれのお部屋で静かに放送を聞きながらお部屋のメンバーで楽しみました。ファッションショーは事前に部屋ごとにクリスマスをテーマにした衣装を用意して子どもたちがなりきりました。その姿の写真を撮った物を施設長、秋本副施設長の審査の下、順位の発表を行いました。1位の発表には部屋の子ども達全員が「お願い！」と祈りながらドキドキして聞いていたようです。それぞれ工夫をこらし手作りしたものや、好きなキャラクターになりきったもの等素敵な写真が集まりどれも愛らしく、楽し気なクリスマスの様子が伝わり子ども達、職員全員が温かい気持ちになりました。その後はサンタさんが遊びに来てプレゼントももらい、子ども達の笑顔が溢れる瞬間でした。例年とは異なる形でのお祝い会でしたが特別な1日になったと思います。

最後になりましたが、皆様にお越し頂く事は出来ませんでしたが皆様方のご支援と温かさに感謝し、想い合い繋がりを感じるクリスマスになったと思います。来年度は皆様と共にクリスマスのお祝いができることを楽しみにしています。

菊地なつき

# 退所するこどもから

## H・Sくん

私の将来の目標は得意科目である英語を生かして、国際物流関係の仕事に就職することです。国際物流とは、必要なものを必要な場所に国境を越えて最適なルートで届ける職業です。この目標ができたきっかけは神戸真生塾での生活のおかげです。神戸真生塾には企業や個人の方から寄付やプレゼントがたくさん届きます。この間は、神戸女学院の方からネックウォーマーをいただきました。プレゼントを開封する瞬間はいつも特別な時間でした。物が届く喜びを誰よりも知っている私だから、この仕事であれば情熱を持って続けられるはずです。まずは大学へ進学して必要な知識を得るために勉学に励みたいと思います。

4歳の時からこの神戸真生塾でお世話になりました。辛いことやしんどいこともありましたが、それ以上に18歳になるまで不自由なく生活できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。特に、高校は私学のグローバルコースに進学したので、ニュージーランドへの留学が必修でした。私にとってかけがえのない経験になりましたが、安くない留学費用を神戸真生塾が負担してくれたことは感謝してもしきれません。そのおかげで、将来の目標がより具体的なものになりました。

私がこのように将来に希望を持てたのは、多くの人の支えがあったからです。中学へ進学するまで私は将来のことなど、どうでもよく、勉強も一切していませんでした。しかし、担任の先生や学習ボランティアの方、部屋の職員さんなどのアドバイスを受けて徐々に勉強に取り組み始め、学校の授業がわかるようになりました。理解できるようになると、勉強する事が苦ではなくなり、自然と1人でもするようになりました。そのおかげで今があります。これからは、自分がしてもらったこと以上に社会に貢献できる大人になりたいです。14年間本当にありがとうございました。

## I・Yちゃん

私が神戸真生塾に来たのは小学校4年生の冬でした。見慣れない光景や見慣れない人たちで不安で先が見えませんでした。初めて神戸真生塾で過ごす夜の時に「ここでやっていけるんかな」と思いながら布団に入ったのを覚えています。住むところも新しい環境な上に、学校も新しくなり、小学生なりにすごくしんどかったのを覚えています。施設での生活に慣れてくると窮屈に感じることもたくさん出てきました。中学生になると、施設にいることでできないことや、周りとは違う家庭環境に不満や劣等感を感じました。神戸真生塾でのルールや職員の人が言っていることが理解出来なかったりして私なりにたくさん反抗もしました。

そんなこともあったけど、私は、神戸真生塾なしでの今は考えられません。高校3年間私立高校に通わせてもらえたことや、私が学習塾に通いたいと言えば通わてもらったり、私がしたいと言ったことや、私が出した決断に、いつも職員の人たちは応援してくれたり助けてくれたりしました。私が何かルールを破った時に、私の代わりに謝ってくれた職員の人もいました。その時はすみませんでした。

最初は、神戸真生塾に来たせいでこんな生活をしたり不自由なことが多いと思っていましたが、今は神戸真生塾に来たおかげで私はたくさんのものを得たなと感じます。今、一番信頼できる友達も、神戸真生塾の職員の人たちや、ここにいる子たちも、神戸真生塾に来なければ会うことはなかったと思います。退所が近づくにつれて、今まで当たり前に感じていた、帰ってきたら誰かがいることや、ご飯が毎日用意されていること、住む場所があること、何か困ったときに支えてくれる人がそばにいること、その大切さに気付くことができました。春からの生活に不安は大きいですが、神戸真生塾で過ごした時間がこれからの私の支えになると思います。今までありがとうございました。

# 乳児院 真生乳児院

## 子どもの育ちを支えるために

乳児院を退所し家庭復帰した子どもたちを対象に、家族療法事業の支援としてアフターケアをしています。保育士、看護師、心理士、社会福祉士等が連携し、保護者と相談し合いながら、子どもたちの日々の成長を共に見守り、退所後の支援にあたっています。繋がりを大切に、育ちを支えていけるよう努めています。

週末には退所した子どもたちの声で賑やかになります。恥ずかしくて照れている子ども、楽しみに元気いっぱい遊びに来てくれる子ども、顔をみるたび大きく成長しているのが伺えます。乳児院の子どもたちも退所した子どもたちと遊ぶことを楽しみにしています。「S君～！」「Kちゃん～一緒に遊ぼう。」とお互いが誘い合う姿が見られます。「お友達と保育所で遊んでいるよ。」「先生優しいねん。」等保育所や学校での話もしてくれます。「キックボクシング習ってるねん。」「おじいちゃんとおばあちゃんと車で遊びに行くねん。」等家庭での出来事もよく話してくれます。そしてふとした瞬間、乳児院で生活していた頃を思い出し「N姉ちゃん、今日いるかな?」「ひよこの部屋にいってくる。」等今まで生活していた部屋を懐かしみ、ホッと安心した表情も見受けられます。また、乳児院の子たちと関わることで「俺が赤ちゃんの時、こんなに小さかったんや。」「ミルクおいしいのかな?」等幼少期の様子を思い出したり職員に色々と質問をし、生い立ちを振り返っています。保護者からも「トイレでおしっこができるようになりました。」「保育園楽しく通えています。」等日々の成長を共に喜んでいます。

子どもたち自身が乳児院へ遊びに行きたいと思い続ける限りWELCOMEし育ちを支えていけたらと思います。

森本智美

## ぼくもやってみたい！（人形劇合同研修会より）

年に一度、神戸市の乳児院3施設で人形劇合同研修会を行っており、職員手づくりの人形劇が行われます。今年度は11月17日に真生乳児院で行われました。会場となる体育館の壁には人形劇の人形や、色とりどりの風船、どんぐりや葉っぱ、動物たちの絵などが飾られ、「何が始まるのかな。」「なんだか楽しそうだな。」と、子どもたちの表情は期待に満ちています。真生乳児院は「野菜のパーティおおさわぎ」の絵本が題材の人形劇です。やさいばたけのやさいの国で、キャベツ王子とトマト姫を中心に、ニンジン大臣やレタスさん、レモンさん、パセリさん、マヨネーズの魔法使いたちが楽しいパーティーを始めるお話です。子どもたちのよく知っている野菜の登場や、歌と踊りに、引き込まれるようにじっと見ています。

人形劇が終わり、居室でのご飯の時間。人参が苦手なAくん。いつも「ニンジンキラーイ」とよけて食べていますがこの日は違いました。保育者が「ニンジン大臣やね」と声を掛けると「ニンジン大臣食べる」と一口パクリ！「Aくんすごい！」「ニンジン大臣喜んでるね！」と一緒に大喜び。そのことがきっかけで、少しずつニンジンが食べられるようになってきています。

庭で遊んでいたBくん。玩具の大きなシャベルを持ち、総合遊具のしゃがんだら身体が隠れるくらいの壁に身を隠しながら、スコップの先だけを出して揺らしながら何か歌っています。よく聞いてみると、「♪おいしい野菜ができまーした」と、人形劇の歌を覚えていたのです。そしてスコップの柄を人形劇の持ち手の棒に見立てていたのでした。それを見ていたCくんもBくんの楽しそうな様子に誘われるようにスコップを持ってきて一緒に歌い始めました。Bくんも人形劇の仲間が増えて嬉しそうです。次の日も庭にでるとスコップを持って人形劇ごっこが始まります。「Bくんはニンジン大臣な！」「Cくんはパセリさんやで」「○○さん見とってよ！」となりたい役になりきって生き生きと遊んでいます。人形劇をきっかけに、イメージを膨らませて遊んだり、友だちとのかかわりが深まったりして楽しんでいます。これからも子どもたちの興味や楽しさが広がるような環境づくりをしていきたいと思います。

中野麻衣子

# 《認定こども園》真生きらきら保育園

## コロナ禍の保育

園長　橋本美記代

2020年度は、コロナ禍での保育という一年でした。感染予防に十分に気を付けながらの保育の継続でした。子どもたちの安全な環境を整えながら、子どもたちが楽しく過ごせる保育を工夫するようにしました。それでも、夏まつりや4・5歳児のお泊り保育等、中止になった行事もたくさんあります。毎月の誕生会では、今までは全園児が集って実施していましたが、乳児と幼児クラスが分かれて実施しています。その中で誕生児をみんなでお祝いする雰囲気は大切にするようにしています。

例年なら全園児で実施している秋の運動会は、3、4、5歳児のみの参加でした。そしてクリスマス会は、4、5歳児の参加でした。今まで毎年行ってきた行事を見直し新たな形でするために、職員が話し合いながら計画実施しています。特に5歳児は保育園生活最後の思い出となるように保護者の皆様にご理解を得ながら進めています。保護者の皆様から実施したことへの感謝のお言葉をいただき職員は安堵しました。

この新しい生活様式の中で、園庭で芋ほりをしたり、お散歩に出かけてどんぐりをたくさん拾ってきたりして楽しむ姿が見られました。コロナ禍であっても変わらない日常の喜びや四季の変化を五感で感じることが出来る子どもたちが、のびのびと健やかに成長していけるように保育の充実を図っていきたいと思います。

先の見えない毎日ですが、手洗い、うがいが習慣となり、子どもたちは、大きく体調を崩すことなく過ごすせることに感謝して、引き続き感染予防に留意しながら保育を進めていきます。

保育園では毎週水曜日に感染予防に気を付けながら園庭開放を実施しています。コロナ禍で遊び場が制限されている地域の親子の皆様どうぞ遊びに来てください。

## 子どもの様子

### さくらんぼぐみ（0歳児）

**～おともだちとの関わり～**

最近、お友だちに関心を持つようになり、子ども同士で関わろうとする姿が多くなりました。持っている絵本やおもちゃを渡してあげようとしたり、お友達がしている遊びに興味を持ち一緒に遊ぶ姿があったり、お名前を呼ぶと指差しをしたりするさくらんぼ組さんです。関わりが増えることで、おもちゃの取り合いになってしまうこともありますが、楽しくあそべるように保育者が仲立ちをしながら子ども同士のかかわりを見守っていきたいと思います。また、もも組さんと一緒に過ごすことも増え、様々なことも見て学び、日々吸収しようとしています。みかん組さんやもも組さんの後ろを歩いて追いかけたり、「あそぼう」と顔をのぞきこんでアピールしたりと甘える姿も見られます！

**～言葉や表情が増えたよ～**

言葉がたくさん出てきている子どもたち。先生たちの言葉の真似っこしようとすることも増え、お話ししようと頑張っています。「わんわん」「アンパンマン」「いや」「ばいばい」などいろいろな言葉が出ています！手遊びや挨拶では手を動かしたり頭を下げたりする姿がとても可愛いです♪笑ったり、泣いたり、拗ねたりと様々な表情がたくさん見られるようになり、園での生活になれてくれているようで嬉しいです！

山本菜生

### めろんぐみ（5歳児）

**～聖誕劇～**

聖誕劇を去年りんごぐみで経験している子どもと、全く初めての子どもがいるため、どういうお話かわかるように、聖誕の絵本を何度も読み聞かせたり、パネルシアターを楽しみ、台本通りにセリフやナレーションを知らせたりしていきました。

毎日、りんごぐみさんと一緒に練習することで動きやセリフのタイミングもわかってきました。練習の後、友達と「ことばいえたわ」「○○くんこえでてたやん」「がんばったやん」など言葉を掛け合う姿がありました。自分のことだけではなく、お互いを認め合いながら友達との関係も深くなってきています。

当日は、衣装を着て「ちょっとドキドキしてきた」「でもがんばろ」と言いながらも自信をもってやり遂げた姿をみていただけたと思います。こういう経験をしながら子どもたちが、成長していることを感じることができました。

**～鍵盤ハーモニカしたよ～**

ずーっとやってみたかった鍵盤ハーモニカ♪

自由遊びの片付けで、次の活動予告をすると片付けの早いこと!!

飛沫に気をつけて吹けるように子ども同士の距離をとり、鍵盤ハーモニカの約束事を知らせ始めました。「とんとんひげじいさん」の曲に合わせて♪「どどど」「れれれ」…みんなの目はキラキラして集中力もすごいです。初めにしては上手すぎて、おまけとして歌を歌うのも大好きな「紅蓮華」をピアノにあわせて♪「そー」「そー」と吹いて楽しみました。

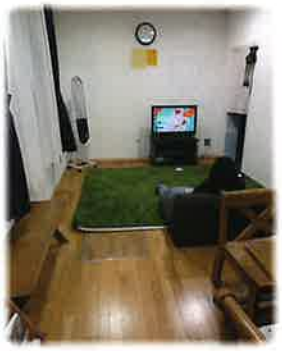
吹き口を洗ったり鍵盤ハーモニカを片付けたりしながら「たのしかったわ」「せんせい、鍵盤ハーモニカ、次いつする？」とアピールしていました。

岡村孝美

# 「自立援助ホーム子供の家」

## 自立援助ホームに勤めて

藤曲卓馬



自立援助ホームに勤務をするようになり早1年半が経ちました。児童養護施設に勤務していた頃と比べ、同じ児童を対象とした施設であるにも関わらず、求められる事の違いに悩まされ、私自身の考え方や経験に対して疑問に思い、自問自答する事も多かったように思います。

そう聞くと、「児童養護施設と自立援助ホームはどう違うのか?」と疑問を感じる方もおられるかもしれません。其々の施設の根拠となる法律・制度や成り立ち、歴史についての言及は今回割愛させていただきますが、私自身が児童養護施設と自立援助ホームのどちらも体験した者として、この二つの施設に対して感じる違いは「その児童にとって、現在の主たる生活が学業か?仕事か?」ではないかと考えます。勿論、自立援助ホームに入所している児童の中にも学籍を持っている児童は居ます。しかし、児童養護施設が措置入所なのに対し、自立援助ホームは「自分自身の力で生計を成し、経済的な支援を受けずに生活をする」意思を持っている者が自らの意志で入所するところです。〝自立〟は児童養護施設の児童も最終的な目標としているケースも多く在り、逆に、自立援助ホームでも〝家庭引き取り〟や〝里親委託〟ケースは在るので児童養護施設と自立援助ホームの大きな違いはそこではないかと思います。

そんな自立援助ホームでの子ども達の日常ですが、施設内での定められた日課は特に無く、児童各々が日々の時間を自分のペースで過ごしています。当然、児童の施設ですので門限を守る事や消灯時間、飲酒や喫煙の禁止等の社会的なルールの順守といった最低限の決まり事はありますが、それでも、「携帯の所持について」等の施設ルールや行動範囲、交友関係については児童養護施設に入所している子ども達に比べはるかに柔軟で幅広いものになっています。

その一方、子ども達自身に求められる事も沢山あります。自立援助ホームは「自分自身で生計を成す」と前述しましたが、児童養護では当然であった公的負担が得られません。施設に入所している期間の入居費用・通勤に関わる経費・住民税や所得税といった税金・健康保険関係・病院に通院した際の治療費や薬代・衣服・学費・施設で用意される必要最低限度の日用品以外の物品等、ありとあらゆるモノが自己負担です。当然、交際費や娯楽費も自身の収入の範囲内で捻出します。その上で、自立の為の資金を貯蓄していかなければなりません。

そのような日常の中で私が一番に驚き、戸惑ったのが処遇に対する進展の速さです。児童養護施設であれば、入所時期は異なれども、大半の児童が退所する高等学校卒業（凡そ18歳）までの期間を逆算して生活力や社会経験を積み上げる支援計画を立て支援を行います。しかし、自立援助ホームでは一定額の貯金後の退所を目標に掲げることが多いのですが、昨日迄普通に生活していた児童が今日になったら既に退所していた…という事も日常的にあります。「今日は話出来なかった事を明日以降で伝えよう」「時期を見て伝えよう」と思っていても伝えようと思った時には既に居ないということもあり、その展開の速さについていけないと思う事もありました。また、支援の方針も関係性を築く中でその都度修正をし、毎日のように（時には数時間単位で）転換を余儀なくされるという事態も多々あります。「じっくりと腰を据えて児童と向き合い、処遇方針をどう実践していくのか」が支援の根幹と考えていた私にとって、この速さや変化は衝撃でもあり自身の経験に置き換えて対応する事の出来ないものでした。

一年余りの経験の中で、徐々にですが自立援助ホームの処遇の在り方や職員としての児童への相対し方等についての考え方がまとまり、日々の処遇に生かせるようになりつつあるように思います。

今後も変わらず日々児童と向き合い、自身と向き合い、研鑽を重ねていけたらと思っています。これからもよろしくお願いいたします。

# ありがとうございました

## 寄付並びに児童招待ご芳名

敬称略・五十音順
（二〇二〇年七月一日～二〇二〇年十二月三十一日）

### 寄付金

安西眞由美
石井幼稚園
伊藤千景
上杉環
上杉徹
上西幸之助
大江慎一・由紀
沖野世津子
數田紀久子
倉石哲也
神戸教員合唱団
神戸教会いずみ幼稚園
子供の家　職員一同
齋藤浩美
佐藤陽子
清水美香
頌栄幼稚園
真生きらきら保育園
住元義則・淳子
高尾華工房　人見明美
高森紀子
東洋英和文学院中高部
時岡三恵
友藤喜久子
中村淳子
西川忠男
日本キリスト教会　西宮中央教会
日本キリスト教団　天満教会
乳児院職員一同
根木志保
BARalf
橋本明
林りえ
濱啓子
濱田栄二・理恵
廣瀬加恵
福島弘子
福田加奈
藤井祥子
藤井秀彦
細見英信
本城智子
民谷清
綿谷栄子
㈲カワタリ電設
養護職員有志
李福美
若林孝典
渡邊智明

### 寄付物品

阿波圭子
淡路　八百屋
IKEA神戸
植田奈緒美
上野尚彦
上村清美
魚平
内田三枝
APバンク
江崎グリコカテゴリー　マネージャー山本
大社貴子
小笠ちさ
小野智永子
カウイ
㈱モリサワ
川崎重工業㈱
河野有紀
協同食品株式会社
共進舎労働組合
神戸セントラル　レオクラブ
佐川急便㈱
三宝
島田千里
神果神戸青果㈱
全国シャンメリ協同組合
ダンス　ヒデ
チュチュアンナ
NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズ・ネットこうべ
ニガキ
日本鏡餅組合
日本教育公務員弘済会
日本ベビーフード協議会
P&G
ヒデ
兵庫県神戸鍼灸医師会
平野正敏
広瀬俊道
フィリップモリス
福原商店
藤野興一
ふる里
マークラー神戸
前村麻衣子
水野和美
みらい子ども財団
リプレット基金事業財団
山賀麻由
吉田商店

# 子どものつぶやき

★「お姉ちゃん子どもの時何年生やった？」（S君・6歳）

★「お姉ちゃん痩せた？かわいくなったみたい」ほめてくれてありがとう。（S君・6歳）

★クリスマスケーキの上にデコレーションしているクリームを見てK君「上にマッシュルームのってる！」T君「マシュマロやろ？」2人の会話を聞いてS君が冷静に「クリームやん」ほほえましい会話でした。（K君・9歳）（T君・11歳）（S君・17歳）

★「スポンジケーキにコレクションして～」「それってデコレーションでしょ！」「そっかー」（A君・7歳）

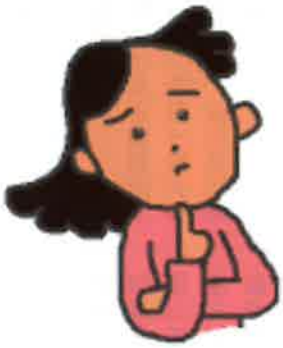
★歌番組をみていると「お姉ちゃんイケメン好きなんやぁ！」「S君の方がかっこいいよ！」（S君・6歳）

★子どもたちの間で鬼滅の刃が大流行。幼児のMちゃんがその会話を聞いて「くだものの呼吸」と…。「うん？？」「それはケダモノの呼吸だね」でもMちゃんには「くだものの呼吸がぴったりだよ！！」（Mちゃん・4歳）

## 子育てホットライン（相談専用）

**TEL：078-341-6493**

年中無休午前9時～午後6時（緊急の場合は夜間も可）
神戸真生塾　子ども家庭支援センター（ロータリー子どもの家）
Homepage　http://www.rotary-kodomonoie.org/
facebook　http://www.facebook.com/rotary.kodomonoie



**子育てに困ったら 先ず電話相談！**

## 子ども家庭支援センターロータリー子どもの家

### 子育て相談に寄り添う

臨床心理士　向井有紀

2020年春、新型コロナウイルス感染症対策のためにおこなわれた臨時休園・休校の措置、外出自粛要請やテレワークの推奨によって、ライフスタイルが激変した家庭が多くありました。そうした状況の中、〈子育てホットライン〉は神戸市からの委託を受け、〈子育て相談窓口〉として稼働することとなりました。2020年4月から6月のことです。この間、96件の子育てに関する相談がありました。子どもと家で過ごす時間が長くなり、関わりにイライラを募らせている母親、「家にいる時間が長いのでゲームを沢山している」と心配な思いを話す母親など、相談内容は様々でした。しかし、ほとんどの相談が、ライフスタイルの変化が根本的な要因となっていたように感じます。

約1年経った今もまだ、元通りの生活とは言えない日々が続いています。それでも学校・園は始まり、これまでより少し自由のある日常を取り戻しました。子ども達にも悩むゆとりが出てきたのか、不登校や登園・登校渋りに関する相談が増えてきています。親は、ある日突然子どもから出された不器用なサインに戸惑い、自分や我が子を責めるかのような切実な思いを抱えて子育てホットラインを利用していたかもしれません。

電話を架けて気持ちを話すこと、人に悩みを打ち明けることはとても勇気のいることです。勇気を出し、「何かが変わるかも」と期待して架けたのに、問題解決には至らないこともあります。それでも、「状況はほとんど変わらないけれどなんか温かかった」「話してみて良かった」という思いを感じてもらうことができれば、家族が前へ進む力になるように思います。小さいけれど温かい関わりを大切に、今後も〈子育てホットライン〉では、子育てに関する相談に日々寄り添っていこうと考えています。

### 編集後記

コロナウイルスの影響で大変な状況が続いておりますが、子ども達は変わらず元気に過ごしております。

今回も皆様方の支援の下、子ども達の成長や輝きを広報誌を通じてお届けできました事を嬉しく思います。不便が多い今日ですが、この状況が一日でも早く解消され平穏な日々が取り戻せるよう心から願っております。

最後になりましたが、広報誌発刊にあたりご協力頂いた全ての方々、日頃よりご支援頂いている方々に心より感謝申し上げます。

（石津加奈子）

### 神戸真生塾苦情処理委員

| | |
|---|---|
| 苦情受付担当者 | 久山 啓　（子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家センター長） |
| | 川本 真美　（乳児院　真生乳児院 家庭支援専門員） |
| | 山口 芽久未（真生きらきら保育園 主幹保育教諭） |
| | 有吉 みはる（神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員） |
| 苦情解決責任者 | 上杉 徹　（児童養護施設 神戸真生塾 施設長） |
| | 數田 紀久子（乳児院 真生乳児院 院長） |
| | 橋本 美記代（保育所 真生きらきら保育園 園長） |
| | 竹原 裕昭　（神戸市立自立援助ホーム子供の家施設長） |
| 第三者委員 | 森光 規之　（当法人元監事） |
| | 中村 悦子　（主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員） |
| 苦情受付件数 | 令和２年７月から12月末まで　０ 件 |